

女性患者への羞恥心を伴う看護に対する 男性看護師の認識と実際

—男性看護師の年代別での比較—

第34回日本看護科学学会学術集会発表

全国男性看護師学会 禁制品

目的

男性看護師は患者や家族にとって身近な存在になってきている。

しかし、臨床場面では



男性看護師による女性患者の羞恥心を伴う看護

- 男性看護師よりも女性看護師からの看護が希望される。
- 多くの男性看護師は、女性患者から看護を拒否された経験がある。
⇒ 拒否された際、悔しさや無力感を表す言葉が聞かれる。

女性患者への羞恥心を伴う看護に関して年代別で違いがあるのか？

女性患者への羞恥心を伴う看護に関する男性看護師の認識と実際について年代別での特徴や違いを明らかにする。

方法

対象

全国の150床以上の病院で、複数（2診療科以上）の診療科を有する1,150施設の内、本研究に協力の得られた544施設に勤務する男性看護師（准看護師を含む）8,539名。

調査方法

平成24年12月～平成25年4月に無記名の選択式一部記述式の自記式質問紙調査を実施し回収は、回答者本人による郵送法とした。

分析方法

対象者の年代を20歳代、30歳代、40歳代、50歳代以上の4群に分け各項目の無回答を除き、 χ^2 検定と残差分析または一元配置分散分析と多重比較を実施した。なお、有意水準は0.05%以下とした。

倫理的配慮

研究代表者が所属する施設の倫理審査会の承認を得て実施した。

回答者の背景

回答者

全体で3,713名(回収率43.5%)

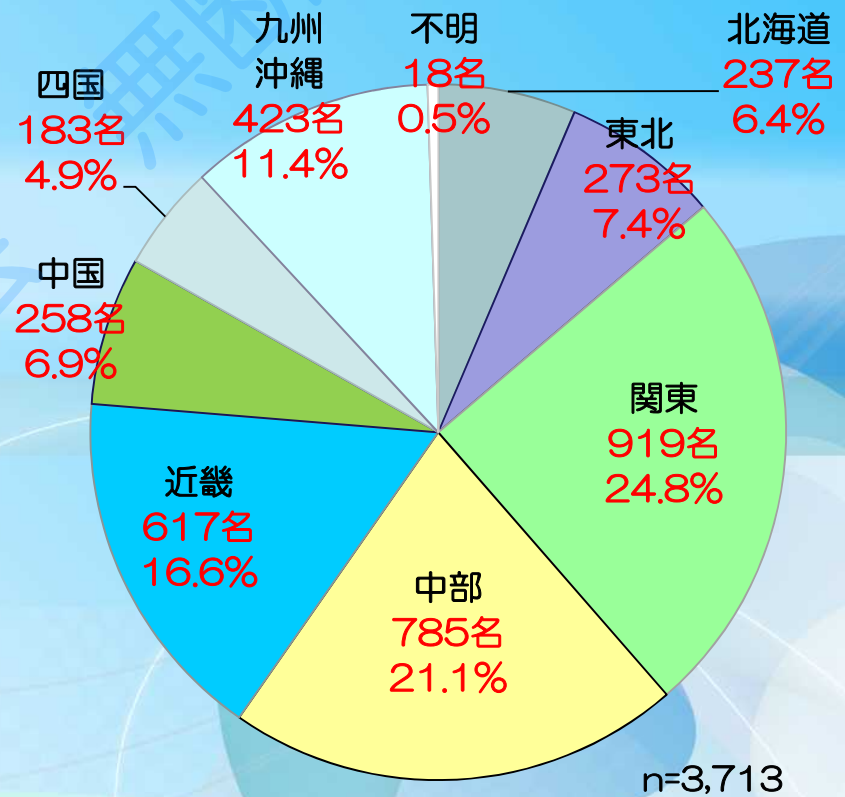
回答者の背景

平均年齢 33.2 ± 7.8 歳、
平均臨床看護経験年数 9.54 ± 7.4
年目

病床数

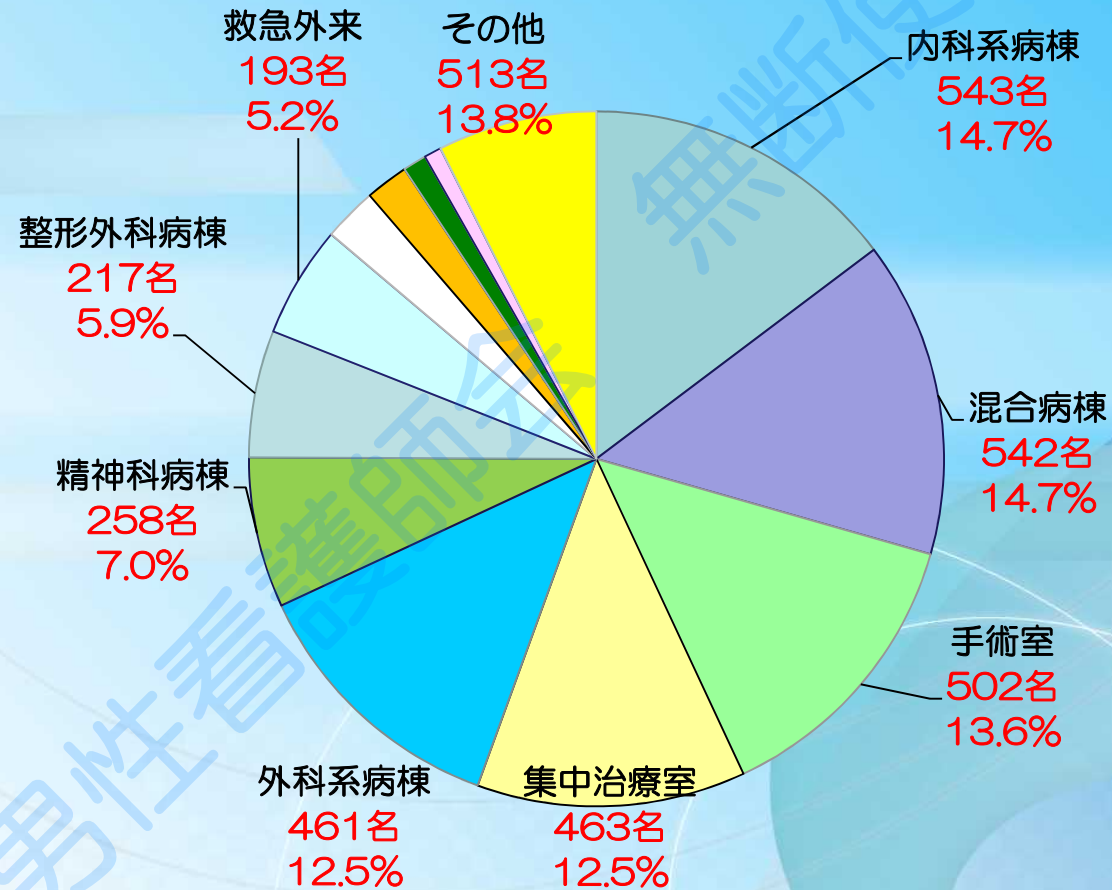
300床以上～500床未満
1,427名 (38.4%)
150床以上～300床未満
905名 (24.4%)

回答者の勤務施設の所在地



回答者の背景

回答者の配属先



内科系病棟543名（14.7%）が最も多く、次いで混合病棟542名（14.7%）

女性患者の羞恥心を伴う看護を実施する際にためらいを感じる程度

経験年数			
年代	n	m (SD) 感じる5点 感じない1点	多重比較 Tukey HSD
20歳代	1,352	3.73 ± 1.23	年代別で有意差なし
30歳代	1,673	3.79 ± 1.18	
40歳代	486	3.86 ± 1.18	
50歳代以上	171	3.80 ± 1.14	
合計 (人)	3,682	3.77 ± 1.19	

女性患者の羞恥心を伴う看護を実施する際に患者や家族に自分が実施してよいか事前確認の有無

	年代				合計
	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代以上	
事前確認を「している群」 (人)	1,105	1,350	396	122	2,973
年代の%	81.4%	80.5%	81.3%	71.3%	80.5%
調整済み残差	1.0	0.0	0.5	-3.1**	
事前確認を「していない群」 (人)	253	328	91	49	721
年代の%	18.6%	19.5%	18.7%	28.7%	19.5%
調整済み残差	-1.0	0	0.5	3.1**	
合計 (人)	1,358	827	1,065	1,243	3,694

**p<0.01

女性患者の羞恥心を伴う看護を実施する際に拒否された経験の有無

	年代				合計
	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代以上	
拒否されたことが「ある群」 (人)	1,122	1,319	360	104	2,905
年代の%	82.4%	78.7%	74.2%	60.8%	78.6%
調整済み残差	4.2**	0.1	-2.5*	-5.8**	
拒否されたことが「ない群」 (人)	240	357	125	67	789
年代の%	17.6%	21.3%	25.8%	39.2%	21.4%
調整済み残差	-4.2**	-0.1	2.5*	5.8**	
合計 (人)	1,362	1,676	485	171	3,694

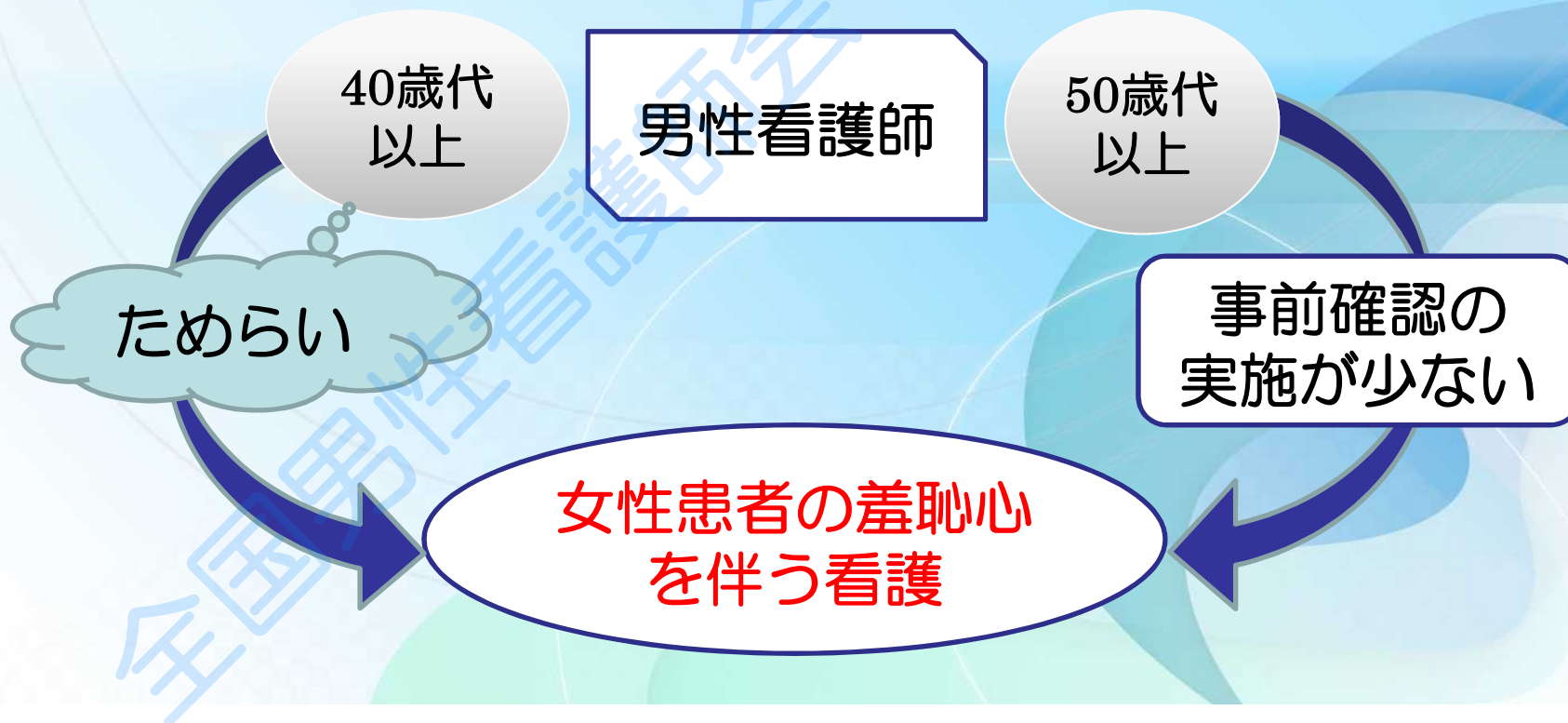
*p<0.05, **p<0.01

女性患者の羞恥心を伴う看護の実施を拒否された際に無力感を感じる程度

経験年数			
年代	n	m (SD) 感じる5点 感じない1点	多重比較 Games-Howell (p値)
20歳代	1,183	2.54 ± 1.34	<p>0.000</p> <p>0.001</p>
30歳代	1,471	2.27 ± 1.25	
40歳代	430	2.27 ± 1.23	
50歳代以上	144	2.41 ± 1.23	
合計 (人)	3,228	2.37 ± 1.28	

まとめ

- 女性への羞恥心の伴う看護を実施する際、比較的年齢が高い者の方がためらいを感じる傾向がある。
- 女性患者の羞恥心を伴う看護を実施する際に患者や家族に自分が看護を実施してよいか事前確認を「している群」の割合は、年代別比較で50歳代以上が有意に少ない傾向であった。



まとめ

女性患者の羞恥心を伴う看護を実施する際に拒否された経験は20歳代、30歳代の順に多く、40歳代以上になると拒否経験が少なくなる。



患者と男性看護師間の年齢差が、少なからず影響していると考ええる。

20歳代の男性看護師は30歳代、40歳代に比べ女性患者の羞恥心を伴う看護の実施を拒否された際に、無力感を感じやすい。



20歳代では拒否経験が多いため、無力感を感じやすいと考える。

- 女性の羞恥心を伴う看護で生じる問題や羞恥心を軽減するための方法は、男性看護師の年齢を考慮して検討する必要がある。
- **20歳代**は、拒否経験に無力感を感じやすく、女性患者の看護に対するモチベーションを低下させない支援が必要である。